

2009.8  
笑いなし、独自の脚本

28の両日に同市川井町の  
松阪コミュニティー文化

27、  
28日

三重高「命の危機」訴える  
劇演劇大会  
伊賀大会  
南勢大会



松阪市久  
保町の私立  
三重高校演  
劇部(小倉  
智秀、秦浩  
之顧問、11  
人)が、27

センターで開かれる「第54回県高等学校演劇大会南勢伊賀地区大会」(県など主催、夕刊三重新聞社など後援)に出演する。出演する4人の部員たちは毎日、小倉教諭と秦教諭の指導下、厳しい練習に励んでいる。この大会は、南勢と伊賀地区の高校演劇部が、それぞれで準備した脚本を元に劇を上演し、その演出や演技力などを競い合うもの。今回は6校が出場し、松阪地区からは



小倉智秀顧問(右)の演技指導を聞く部員ら。久保町の三重高で

三重高が参加する。上位2校が県大会に出場できる。同校演劇部は、2年生4人が「バーストップ」人はやればできるといふけれど、「」を上演する。脚本は部長の2年・山下茜さんを中心に出演者たちで考えた。山下さんは

「幾つになっても夢を追い掛ける人が増えた。夢を追い掛け続けて結婚や出産を先送りすることに、生物や生命の危機に向かっているんじゃないか」と話し、その疑問を脚本に生かしたという。これまで同校は、コメディやアクションを中心に上演してきた。今回は、「笑い」なし。出演する舛井廉君(2年)は「高校演劇らしくないものをあえて作った。いい意味で周りを裏切りたい」と話している。同校の上演は、27日午前10時から。同9時50分からの開会式では、同大会の実行委員長でもある舛井君が開会のあいさつをする。